

# 堺市依存症地域支援計画骨子案・構成案に関する意見一覧

## ○「計画の策定にあたって」の項目に関するご意見

ご意見・コメント
構成案1. 策定の背景と趣旨は、本人の回復がメインテーマ、予防がサブテーマというふうに読めますが重みづけとしてそれでもよいのでしょうか。
(5-2)1. 策定の背景と趣旨の2つ目の文章について依存症の本人や家族が孤立することを防止し、支援者等とともに回復に向けての進むための計画をする というように、孤立を防ぐという趣旨の文字を入れるのはいかががでしょうか(一番こわく重症化させるものが「孤立」という気がします。
「他計画との関係」の項で府または堺市の「再犯防止計画」との整合性はどのようなのでしょうか。

## ○「堺市の現状と課題」の項目に関するご意見

意見・コメント
処方薬、市販薬などの依存症が新たな課題になっています。
ギャンブル対策は、アルコールや薬物にくらべ最近の問題なので早急な対応が必要。相談窓口等周知徹底が必要。
薬物・ギャンブル等の専門医療機関を是非置いて欲しい。近隣の市等に所在する医療機関であっても協力体制を作ってほしい。
社会資源に司法関係機関も入れて頂きたい。
「2市民意識行動調査及び～」の項で記述されていることが、調査項目であって、調査結果ではないので、「3堺市の現状を踏まえた～」の(1)～(3)の3つの課題の妥当性が検証できないように思います。 ※資料4の「調査結果からみえてきた課題」と上記「3堺市の～」が内容、文言ともに整合性があつた方がよいと思います。

## ○「本計画がめざすもの」の項目に関するご意見

意見・コメント
①と⑤の教育について小・中学生へのライフスキル(生きづらくない生き方のスキル)の教育への取組を入れてほしいです。 ゲーム障害や各依存症の若年化への対策には不可欠と考えます。
ギャンブルは借金必ず問題となるので、医療・行政・自助団体だけでなく、弁護士や司法書士とも連携する必要がある。
[3. 計画期間中の目標]2つ目のネットワーク力を高める場を、具体的に創設し、定期的に行ってほしいです。
基本方針③「本人および家族」という言い方は「依存症者本人とその家族」を連想するものであり、未だ発症すらしていない者を含まないという印象を受けます。これに関連して「若者層への啓発」という視点をどこかに入れて欲しいと思います。
①医療機関が1カ所と少なく3カ所に増やそうとされているのはとても良いと思いました。身近に医療機関があるのは良いと思います。 ②特に薬物事件をやっていると感じるのですがこころの健康センターなどでもっと「家族教室」や「スマーブ」など本人のための教室がもっと多く開催されて、いつからでも参加できるような体制になっているとよいと思います。「今はやっていない」とか「途中からはダメだ」とかいろいろ条件があると治療につながりにくいです。
「2基本方針」③～では、依存症の予防を図るとともに重症化を防ぐでいかがでしょうか。
「ダメ、ゼッタイ」「人間やめますか？」については、回復できる病気！！のアピールを声を大きくすることで偏見が少しでもなくなればと思います。(年代的なものも多い)

## ○「取組の推進」の項目に関するご意見

意見・コメント
①と⑤の教育について小・中学生へのライフスキル(生きづらくない生き方のスキル)の教育への取組を入れてほしいです。 ゲーム障害や各依存症の若年化への対策には不可欠を考えます。
④は依存症に関してでしょうか。「安心して」、「健やかに」「孤立せず」を実現するための具体的な取組はどんなものがあるのでしょうか？

構成案1. には「依存」という言葉があるが、骨子案にはない。依存症の問題に依存(共依存)という問題も大事な視点なので、骨子案にも入れるべきではないか。
「孤立の防止」→つまり相談しやすい特に薬物の場合は相談しても逮捕されないことの周知宣伝が重要かと思いました。 「本人や家族が自分に合った支援につながるができる」はとても重要でよいと思いました。希望すれば心理士を紹介してもらえとかのサービスもあればよいと思いました。(薬物など依存症は背景に家族関係や生い立ちなどの問題があることが多いため)
・専門医療機関が少ないことをのぞけば、堺市の依存症支援の社会資源は充実していると思います。 ・依存症の人を見つけたり、ハイリスク者に介入する仕組みが次に必要となってくると思います。 ・アルコールは対象者が多いことも介入の手法もある程度確立しており、アルコール依存症のハイリスク者はアルコール健康障害のハイリスク者でもあるので、健康増進計画と協同して早期介入が具体的に可能ではないでしょうか。
①～⑤の図がわかりやすく、～ひとりやないさかい、相談してな～のぬくもりを感じました。

○その他、骨子案・構成案全体に関するご意見

意見・コメント
「予防」「回復」といった文言をしっかりと定義付けしておかないと誤解を生じるのではないかと思います。 予防…発症、進行、再発の各段階での予防のこと。発症予防のみを指さない。 回復…止め続けること。回復するが完治はしないとされる。
より具体的な計画が必要になると思います。例えば、一般医療をどう連携していくか、一般精神医療とどう連携していくか、一歩踏み出した計画を出せたらよいと思いました。
若い方のインターネットやゲームについて1日3時間以上が3割もいることについては、不安を感じるので「予防」というか将来の世代を守るために適切なゲームやインターネットの楽しみ方を知る、他の生活とのバランスを目指す教育普及もあってよいと思いました。
どこかに「重複障害、クロスアディクション」への理解と支援を充実させるなどを入れておくと先進的かも。

## その他案件以外に関する意見一覧

意見・コメント
前回の懇話会で共有していただいた「自殺と依存の関係」について、クロス集計結果は前述の教育とも関連し、重要な結果だと考えますので調査報告にも載せてほしかったです。
ギャンブル等依存症専門相談員の方と、家族の会と意見交換の場があればと思う。
調査報告書ありがとうございました。スタッフで共有させてもらいました。意見ではありませんが、依存症者が回復した後、就労するにあたって困難なことが多いので意見やアドバイスがあれば聞きたいです。
薬物について、ダルクやNA、精神科病院などに不安と孤立を感じる人達も多いです。保健所などは心理的孤立を感じにくくそういう方達にはすめやすいのですが、「今は募集していない」「この時期しかダメだ」「人数はこれだけ」等の間口のハードルが高いと、結局相談や治療につながらないのでハードルの低い相談窓口があるとよいと思いました。そこから適切な治療機関、支援機関につながる仕組みがあればよいと思います。
一般の市民から相談を受けますが、必ずと言って良いほど「どこに相談にいったとよいかわからない」とおっしゃる方が多いです。 なので、やはり啓発活動が必要なポイントになると考えます。浅く広く啓発を行いたい。 また行政と我々自助グループとの共催でイベントを開催したい。どちらが主催でも構いません。例えば自助グループのイベント(断酒会で言えば1日研修等)に予算を付けていただいて、行政と一緒に啓発のイベントをしたい。著名な方を講師として招けば、市民の方も興味をしめされるのでは？ そう言った方のお話は、リアルに伝わると思います。 初年度には打ち上げ花火的にでも、予算をつけて大々的に啓発イベントを開催したいですね。コロナの問題もありますが、どうぞ宜しくお願いいたします。
今回の案件の全体通しての意見です。 ①アルコール依存症については専門医療機関を受診するかなり以前より、肝障害、膵炎、糖尿病、貧血、低カリウム血症、意識消失発作などが多くのアルコール関連身体疾患の為、内科をはじめとした医療機関にかかっていることが多くあります。従って積極的にこうした医療機関との連携強化をはかることも重要と考えます。 ②アルコール依存症の方々の話を聞くと、10代から飲酒していたということが多く認められます。啓発活動については、学校教育の場において積極的なかわりをもっていくことが重要と考えます。 ③依存症は孤立を深めていく病気で、その孤立がさらに病状を進行させます。回復の観点からは、依存症に特化した、また、あらゆる回復段階や年齢やスキル等を考慮した居場所の確保、生活支援、就労支援に関わる作業所の更なる充実と連携強化が望まれる。
早期介入(案) アルコール→病院・クリニックの消化器内科で早期発見。 薬物→病院の救急外来で早期発見。 ギャンブル→少なくとも堺市内のパチンコ屋に身近な相談機関(こころの健康センター、保健センター、その他支援機関)としてピラはりで早期発見。
依存症は、人に言えない孤立から始まる病気で、当事者はうずの中にいる。そこに、ほとんどの家族が巻き込まれていく病気なので、家族の方の支援が依存症の支援になるので、家族ワークを定期的に行う。①(薬物)依存症とは、②家族ができること、できないこと、③当事者との関わり方、④依存の人の回復と家族の回復などは、他の施設に行っても質問されることもありました。